

J P S
北九州

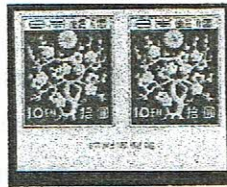
報 会
日本郵趣協会
北九州支部
平成30年 12月 8日
第 345 号

第一 次

新 昭 和

10円 梅花模様

1947年3月7日発行



50円 能面

1946年11月1日発行



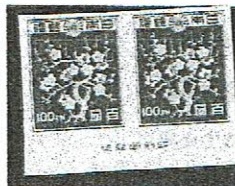
正透かし



横透かし

100円 梅花模様

1947年1月15日発行



提 供 : 橋 本 たねひろ 氏

第一次新昭和切手10円、50円、100円の収集

橋本たねひろ

10円「梅花模様」も、単位額面用として昭和22年3月7日出現し、さくらカタログで1種のみ、用紙も灰白紙のみであり、単片収集は1種で十分である。

この切手は、三次昭和10円の図案の国名表示と料額文字を左書きに改正した最初切手であり、印刷局銘版も左書きとなった最初のものである。

エンタイヤも消印別収集も苦勞するはずである。

50円「能面」も、単位額面用として昭和21年11月1日発行され、さくらカタログでは昭和透かしと横透かしの2種、用紙が白紙のみであるので、単片収集は2種ということになるが、両透かしとも残存数が多くどちらの評価額も同額である。

表紙のとおり銘版は日本国銘のみであり、未使用は高価であるものの収集は比較的楽であるが、一転してエンタイヤや消印別収集はかなり苦勞するはずで、目打ち有りの50円能面より格段の難しさがある。

100円「梅花模様」も、単位額面用として昭和22年1月15日、最高額面の切手として発行され、さくらカタログで1種、用紙が白紙のみであるので、単片収集も1種ということになる。

但し、昭和21年12月26日には東京中央局で窓口販売されている。

一種便30銭時代の100円であるから、今なら2万7千円ほどになり、この切手を購入した人は熱心で余裕のある郵趣家しかいなかった。

表紙のとおり銘版は印刷局銘のみであり、未使用は高価であるものの収集は比較的楽であるが、50円同様エンタイヤや消印別収集はかなり苦勞するはずで、目打ち有りの100円よりかなり難しい。